

# Web カレンダーデータベースシステムによる地域情報と 企業情報の発信の取り組み

望月美郷<sup>†</sup> 荻野千夏<sup>†</sup> 大野祐<sup>†</sup> 小武未来<sup>†</sup> ピョーインウィン<sup>†</sup> 彦坂和里<sup>†</sup>

渡邊育実<sup>†</sup> 此下翔太<sup>†</sup> 杉山岳弘<sup>†</sup>

静岡大学情報学部<sup>†</sup>

## 1. はじめに

本稿は、大学の地域連携プロジェクトとして実施している、Web カレンダーデータベースシステムによる地域情報発信の取り組みの報告である。産業や文化といった地域情報と企業情報を収集し、日付と関連づけてカレンダー形式のデータベースを構築し、Web 上のカレンダーデータベースシステムを作成、公開している。

この取り組みにおいて問題となるのは、情報の収集方法、カレンダーで表示するための日付の記述および処理方法、365 日すべての日に何らかの情報を割り当てることである。

日付の情報には、毎年変わらずに決まった日付で存在するデータだけではなく、期間や変動する日付といった複数の種類が存在しているため、Web ページ上のカレンダーで表示する際に日付に関する情報の処理が必要である。

本稿では、データの収集および整理方法、カレンダー形式にするための日付処理の方法と現在の取り組みについて報告する。

## 2. 収集したデータについて

まず、収集したデータの種類、収集・整理方法について述べる。

### [収集したデータの種類]

図 1 に収集したデータのカテゴリを示す。

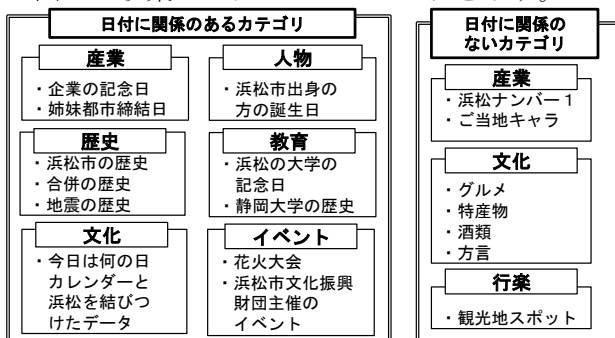


図 1：収集したデータのカテゴリ

収集したデータは大きく分類すると、「日付に関係のあるカテゴリ」と「日付に関係ないカテゴリ」の2種類に分かれる。

### [データの収集・整理方法]

データ収集・整理は図 2 に示すような流れで進める。まず、書籍、メール調査、各組織からの提供資料、電話調査、Web 調査によってデータを収集する。主な調査資料については、参考文献[2,3]および報告書[4]に掲載する。収集したデータは日付に関係のあるカテゴリ、日付に関係のないカテゴリに分類し、整理する。2012 年 2 月時点で、日付に関係あるカテゴリは 524 データ、日付に関係ないカテゴリは 114 データとなっている。

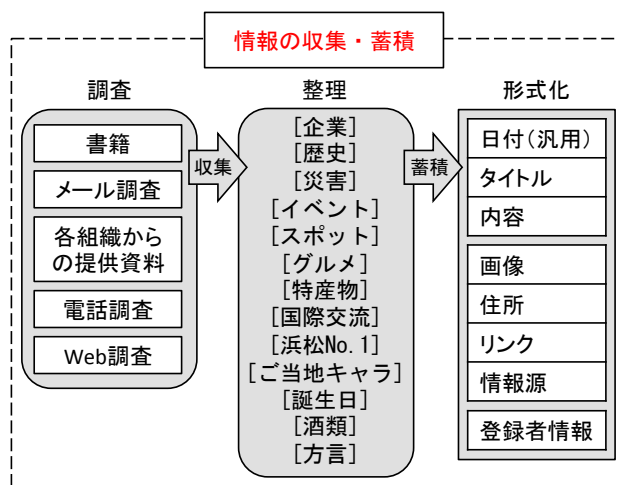


図 2：データ収集・整理の流れ

## 3. カレンダー形式のデータベース

日付に関係のあるカテゴリに分類されるデータは、それぞれ関係のある日付もしくは期間に対応するために、表 1 に示すような日付の情報に分類し、記述する。

表 1：日付の種類

固定日付	毎年変わらずに決まった日付で存在するデータ
固定期間	毎年変わらずに決まった期間で存在するデータ また、固有の期間で開催されるデータ
変動日付	毎年日が変動するデータ(例:8月第1土曜日)
季節	観光地やグルメといった旬のデータ

Approach of Providing Community and Enterprise Information by Web Calendar Database System

<sup>†</sup>SUGIYAMA, Takahiro(sugi@inf.shizuoka.ac.jp)

<sup>†</sup>MOCHIZUKI, Misato(omochi@sugilab.net)

<sup>†</sup>OGINO, Chika <sup>†</sup>Ono, Yu <sup>†</sup>KOTAKE, Miki <sup>†</sup>PHYOYINWIN

<sup>†</sup>HIKOSAKA, Airi <sup>†</sup>WATANABE, Ikumi <sup>†</sup>KONOSHITA, Syouta

Faculty of Informatics, Shizuoka University<sup>†</sup>

Web ページ上でカレンダーを表示する際に、情報を表示する日にちを決定する必要がある。日にちの情報は、年度を指定することで、特定することができる。具体的には、以下のような日付特定処理を行っている。

**[固定日付、固定期間]**

固定日付、固定期間については、そのまま日にちと曜日が決まる。

**[変動日付の日付特定処理]**

花火大会のデータのような変動日付は、「7 月第 3 土曜日」という記述がされている。このような記述から年度、月の情報、開催される週の情報、曜日の情報を算出し、日付を特定する。

**[季節や日付のないデータの日付特定作業]**

季節や日付のないデータについては、「今日は何の日カレンダー」[5]を参考に、できるだけ関連のある日付を割り当てて手で日付を決定する。

上記のように、すべてのデータに日付の情報を特定する。また、浜松市文化振興財団から提供される浜松市に関するイベント情報も合わせ、365 日（うるう年の場合は 366 日）すべての情報を決定する。

**[データベースシステムの構造]**

今回作成したデータベースシステムは、Web ページ上でカレンダーを表示する際にもととなる、日にち毎のファイルを生成している。図 3 に示すようなフローで日にち毎のファイルを生成している。

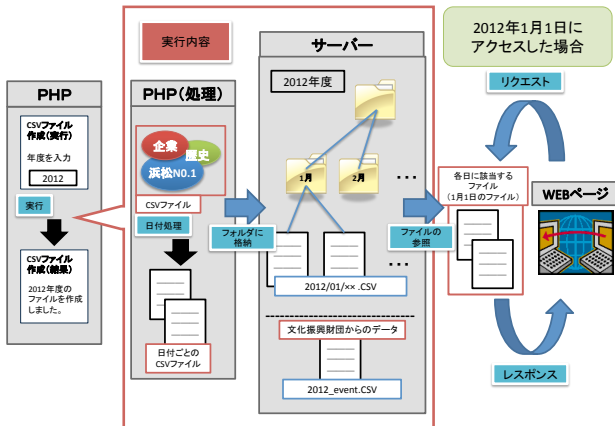


図 3：データベースシステムの構造図

**4. Web 上のカレンダーデータベースシステム**

図 4 に示すように、制作した Web カレンダーはユーザがビジネスマンであることを想定し、見開きの「手帳」をイメージしたデザインとなっている。Web ページを開いたその日に関するデータを表示するような設計となっている。



図 4：Web ページのトップ画面イメージ図

**5. まとめと今後の取り組み**

事業の初年度は、産業・文化といった地域情報を収集し、日付と関連づけてカレンダー形式のデータベースを構築し、Web 上のカレンダーデータベースシステムを作成、公開している。

今後は事業名を「浜松 365Next はままつ Komachi」とし、上に述べた地域情報の発信に加え、企業情報の発信に取り組んでいく予定である。この事業では、地元企業の知名度アップやブランド化、サービス業の活性化を目指し、美人カレンダーの要素を入れる。地元企業の看板従業員を「Komachi」と名付け、制服姿の写真を収集する。さらに Komachi に自社 PR 文やおすすめの店舗情報を提供してもらう。収集した情報は、整理・データベース化し、Web カレンダー形式で2013年4月1日から公開予定である。

**謝辞**

本連携プロジェクトの実施にあたって、御指導、御支援いただいた浜松商工会議所の鈴木純一様をはじめとする関係者の皆様、静岡大学情報学部地域連携推進室の皆様、IT コーディネーターの和田喜充様、浜松市文化振興財団様、他ご協力いただいた各企業の皆様、静岡大学の学生の皆様に感謝の意を表します。

**参考文献**

[1]浜松 365, <http://hama365.info> (2013年1月現在)  
 [2]郷土出版社編, 目で見る浜松の100年, 郷土出版社, (2002)  
 [3]静岡大学50周年記念誌編集委員会, 静岡大学の50年, 静岡大学, (1999)  
 [4]静岡大学情報学部杉山岳弘研究室, 平成23年度「情報学部地域連携プロジェクト 浜松 365 報告書」, (2012)  
 [5]今日は何の日カレンダー, <http://www.nnh.to> (2013年1月現在)